

平成 21 年 年 頭 所 感

「感性豊かな社会を取り戻すために、今こそオーディオ & ビジュアル文化の大切さを共有しよう」

社団法人 日本オーディオ協会 会長 校條亮治

冒頭から暗い話題で申し訳ありませんが述べないわけには行きません。昨年は、夏以降大変な年となりました。サブプライム問題に端を発したアメリカ発の金融危機は一気に世界を巻き込み、更には実業の世界にも多大な悪影響が出るに至っています。また国内においては悲惨な社会事件が多く発生しました。

著名学者によれば、世界の経済システムが 100 年に一度あるかないかの大転換の時期にあるとの見解もあります。少し下世話的に言えばまさに、本能的な拝金主義と自己中心主義のなせる結果ではないかと思いたくなくなってしまいます。

21 世紀に入って既に 9 年を経ました。経済産業省は日本社会および日本産業の将来を予見したとき「高機能」、「信頼性」、「低価格」を超える第四の価値として「感性価値」若しくは「感性品質」が重要な位置づけとなると一昨年「感性価値創造イニシアティブ」を策定し、推進してきました。今まさに指摘のとおり、そのことが現実になってきたのではないのでしょうか。私たち日本人のもっとも大切にしてきた「感性豊かな社会」が壊れていっているように思えてなりません。

我田引水で恐縮ですが、日本オーディオ協会は昨年より、「豊かなオーディオ文化を広め、楽しさと人間性にあふれた社会を創造する」とした新しいビジョンの下に活動を進めようとしています。更に具体的に「4 つの融合」即ち①「プロフェッショナルの匠とマニアのこだわりとビギナーの憧れを融合」②「デジタル携帯オーディオとホームオーディオの融合」、③「2 チャンネルステレオとマルチチャンネルオーディオの融合」、④「デジタル技術とアナログ技術の融合」を掲げています。

今年はこれらの具現化を押し進めたいと思います。具体的には 2 月 21 日～23 日に開催される「A&V フェスタ 2009」において 4 つのテーマを中心に徹底的に「感動体験の場」を提案してまいります。

また、テレビ放送における 2011 年デジタル化に際しては、音声信号の 5.1ch サラウンド放送化と、BS デジタル放送における音声信号のリニア PCM 化導入を目指し、関係機関の理解を求めて活動強化をしてまいります。これらにより A&V 生活シーンにおける新しいライフスタイル提案と、AV 市場の創造を進めていく所存です。

私たちの日々の生活には今や「音楽」は欠かせません。「音楽」こそ、人々の感性を豊かにするという信念の下、感性豊かで安心して暮らせる日本社会を創造するために日本オーディオ協会は今年も精一杯活動してまいります。皆様の絶大なるご理解とご支援をお願い申し上げます。



顔写真

社団法人 日本オーディオ協会
会長 校條亮治(めんじょう りょうじ)